

和歌山県立医科大学附属病院 産科・婦人科

当科の特徴

当科は、県内唯一の総合周産期母子医療センターとして県内の周産期医療の中心であり、同時に和歌山県の婦人科がん診療の中心としてがんセンター的役割を備えた施設です。年間分娩数は500-600件で、母体搬送は約80件あり、広大な県全域をカバーできるようドクターヘリを常時運用し、重症妊婦や産科救急にも24時間全例応需で対応し、文字通り和歌山の産科医療の砦となっております。これに連携施設である2つの地域周産期センターと各地域中核病院との間でネットワークを形成し、安全かつ最高レベルの周産期医療を行っています。婦人科領域では、年間100例以上の浸潤がん症例があり、最新かつ安全な婦人科がんの手術を多数行い、放射線治療は最新のIMRTであるTomotherapyを多用しています。さらに腹腔鏡手術や腔式手術、女性内分泌に至るまで幅広い領域を担っています。これら基幹施設の研修に加えて、高度生殖医療や内視鏡手術などの特色をもった複数の連携施設およびローリスク妊婦管理や良性手術を中心とした地域医療を担う連携施設を組み合わせることで、common diseaseから最先端医療までを短期間で身に付けることができます。

専攻医1人あたりの症例数・手術数の数が豊富で、非常に

早い時期から多数の手術の術者としての研鑽や豊富な分娩症例の経験が得られ、マンツーマンの手厚い指導體制の下、即戦力として活躍できます。

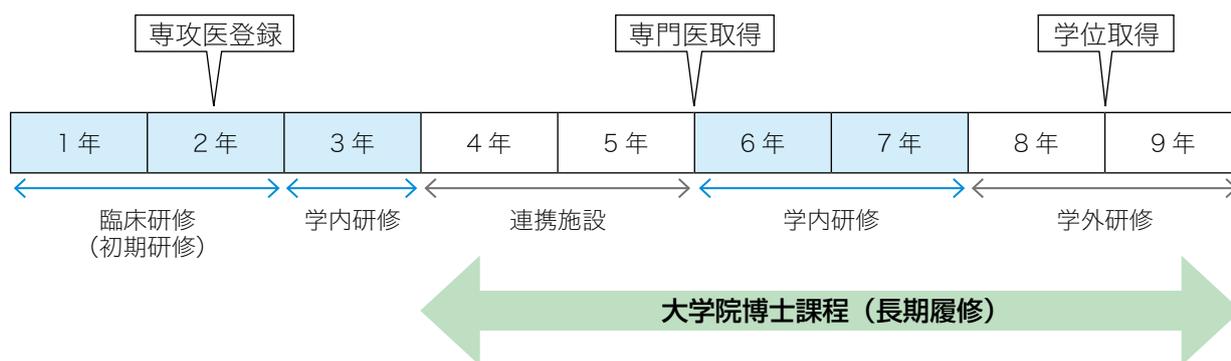
人材育成では研修医、専門医、サブスペシャリティまで切れ目のない教育を実施し、常に科学的に考えることができる医療人を目指して、臨床研究や学会発表・論文執筆などを指導し、リサーチマインドをもつ医師を育成します。卒後4年目以降の大学院入学も可能で、学位取得もできます。また、本学と連携施設の相互協力体制を整えており、産休育休期間の希望に合わせた取得や女性医師支援を積極的に行います。



ローテーション例

一般枠コース

※ □ は学内研修



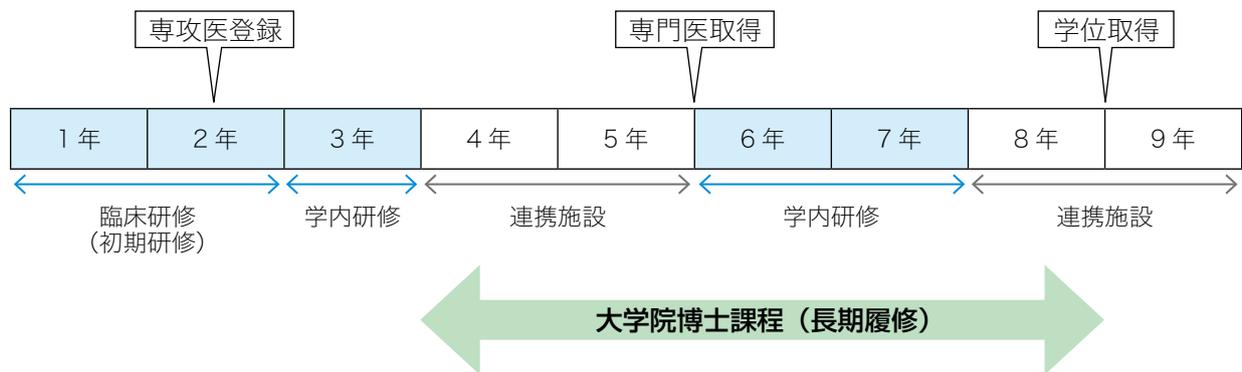
一般枠医師については原則プログラムのローテーションに従って研修を行います。

詳細は和歌山県立医科大学産科婦人科学教室ホームページ内 (<http://www.wakayama-med.ac.jp/med/sanfujinka/contents/kensyuprogram.php>) の産婦人科専門研修プログラムに載っています。卒後3年目(産婦人科1年目)から、専攻医として産婦人科研修プログラムを開始し、原則3年目は和歌山県立医科大学で研修し、産科婦人科全体にわたる知識や基本技術の修得と多彩な症例経験や高度医療の経験を積みまます。4年目から5年目にかけては、連携施設である公的中核病院で研修しますが、連携施設での研修期間は個人個人の希望や研修達成度も踏まえて、1年ないし2、3年と臨機応変に対応しています。6年目に産婦人科専門医取得後は希望するサブスペシャリティ(周産期、婦人科腫瘍、生殖)に応じて、大学内または特徴的な公的病院にて研修を行います。また国内外への留学(臨床のさらなる研鑽や基礎研究)等も可能です。卒後9-10年目にサブスペシャリティ専門医を取得予定です。大学院での研究は卒後4年目から9年目の間のいずれかの時期の4年間で行うことを奨めています。

ローテーション例

県民医療枠コース

※ □ は学内研修

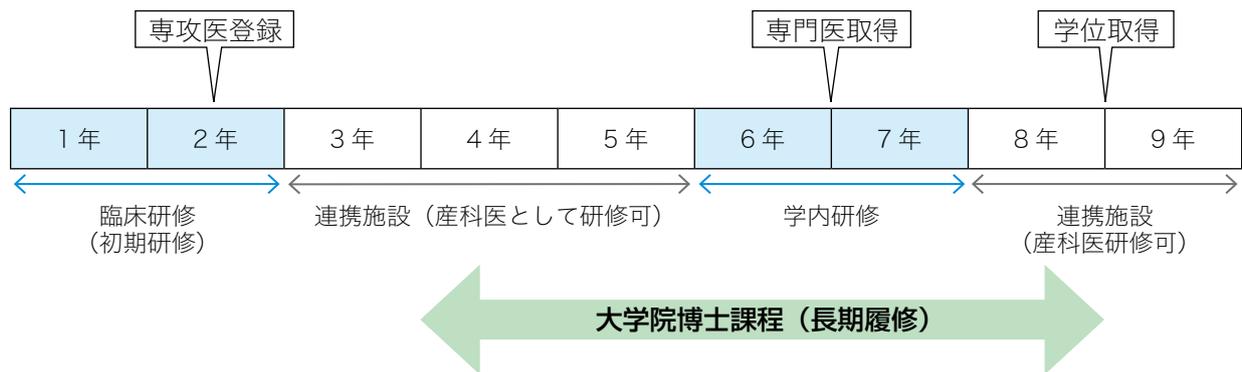


県民医療枠コースでは3年目は基幹施設である和歌山県立医科大学附属病院で研修を行います。4年目、5年目は地域中核病院である和歌山ろうさい病院、ひだか病院、紀南病院、橋本市民病院、那賀病院等で研修し、産婦人科専門医取得後は大学に戻って、研究や高度な医療を研鑽し、希望に応じてサブスペシャリティの修練のための留学も行います。8、9年目には地域中核病院で後輩の指導を行いながら、地域中核病院で活躍できる医師を目指します。希望者は大学院に入学し、9年目には学位を取得する予定です。10年目以後はサブスペシャリティ専門医を取得し、大学に残って教員として臨床、研究、教育を行ったり、地域中核病院の部長を担うようなトップリーダーを目指してもらいます。

ローテーション例

地域医療枠コース

※ □ は学内研修



産婦人科を選択する地域医療枠コースの方には、へき地での地域医療研修を、特定の地域（橋本市民病院、ひだか病院、紀南病院、新宮市立医療センター）において、産科医として研修する（総合内科診療の代わりに）ことが認められています。臨床研修（初期研修）の後、3年目から5年目までは上記4病院いずれかにおいて、産婦人科医として研修を行いますので、卒後3年目から産婦人科研修プログラムを遂行することが可能です。6、7年目には基幹施設である大学に戻り高度な産婦人科医療を修得します。通常の産婦人科研修プログラムに入っている一般枠や県民医療枠コースの方から1年遅れの卒後6年で、産婦人科専門医取得が可能です。8、9年目には再び上記4病院にて地域の産婦人科医療現場で後輩の指導にあたりスキルを磨いていきます。10年目以後は一般枠と変わりありません。

研修目標

当科での研修は以下の能力を身につけることを目標としています。

- (1) 経陰分娩（正常分娩）を管理し、1人で遂行できる。異常分娩に対する的確な評価、判断、対応、必要に応じた上級医コールが確実にできる
- (2) 帝王切開を術者（執刀）として完遂できる
- (3) 単純子宮全摘術、付属器摘出術を術者として完遂できる
- (4) 腹腔鏡手術や悪性腫瘍手術を理解し、術者または助手を完遂できる
- (5) 重症妊産婦への対応、母体搬送への救急対応ができる
- (6) 婦人科がんの画像評価、化学療法、放射線療法のプランニングと実践ができる
- (7) 不妊症や婦人科内分泌疾患、女性ヘルスケアへの外来対応、治療ができる
- (8) 臨床研究の立案、実践や学会発表、論文作成ができる

教授からのメッセージ



井筒 一彦 教授

和歌山県で産婦人科の専門研修をしてみたいと考えているみなさん、こんにちは！和歌山県の産婦人科医療は、和歌山県立医科大学を中心として、県内す

べての地域の拠点病院と密接に連携し、産科・婦人科ともに患者さんの重症度やリスクに応じて明確な役割分担がなされ、県内チーム一丸となって支えられているのが特徴です。和歌山県立医科大学産婦人科専門研修プログラムにおいては、和歌山県立医科大学附属病院を基幹施設とし、県内9の中核病院および大阪府南部の1病院の計10の連携施設と共に施設群を形成しています。専攻医の先生の希望も踏まえて、基幹施設である大学病院と連携施設をまわる複数のコースを用意しており、自分に最適のコースを選択して研修をすることが可能です。また産婦人科では、一般枠、県民医療枠、地域医療枠、3つのどのコースの方にも、大きな隔たりはなく、質の高いキャリア形成をしてもらえる内容となっております。

本プログラムは、症例数・手術数の豊富な数に比べ、専攻医の数が比較的少ないのが特徴で、非常に早い時期から多数の手術の術者としての研鑽や豊富な分娩症例の経験が得られ、マンツーマンの手厚い指導体制の下、即戦力として活躍できます。全国的に産婦人科医の不足や産科医療の危機が社会問題となったのは記憶に新しいところですが、当大学内お

経験目標

当科では以下の経験を積むことを専門医研修プログラムの修了要件にしております。

- (1) 分娩症例 150 例以上
- (2) 帝王切開；執刀医として 30 例以上、助手として 20 例以上
- (3) 前置胎盤症例（あるいは常位胎盤早期剥離症例）の帝王切開術執刀医あるいは助手として 5 例以上
- (4) 子宮内容除去術、あるいは子宮内膜全面搔爬を伴う手術執刀 10 例以上
- (5) 腔式手術執刀 10 例以上（子宮頸部円錐切除術、子宮頸管縫縮術を含む）
- (6) 子宮付属器摘出術（または卵巣嚢胞摘出術）執刀 10 例以上
- (7) 単純子宮全摘出術執刀 10 例以上（開腹手術 5 例以上を含む）
- (8) 浸潤がん手術（執刀医あるいは助手として）5 例以上

よび和歌山県内の産婦人科医の勤務環境の改善や女性医師の産休・育児中の支援体制の整備など、さまざまな努力を続けてきたこともあり、当大学では若手産婦人科医師が近年著明に増加しています。しかしながらさらなるマンパワーの増加は必須であり、県内・全国から私たちの仲間に入ってくれる若い力を広く受け入れております。産婦人科は外科系でありチーム医療が非常に重要ですので、運営に関しては『チームワーク』や『和』を最も大切にしております。また、教授から初期研修医にいたるまで、壁をいっさい取払い、スタッフ全員が何でも気軽に話し合える環境を構築しています。当科における人材育成のモットーとして、

- (1) 高い医療倫理観
- (2) チーム医療を遂行できる協調性
- (3) 臨床に直結する研究を実行できるリサーチマインドと自ら科学的に考えて臨床の疑問を解決していく能力

以上3点を有するような優れた医療人を育てていきたいと考えております。当科のプログラムに興味のある方、仲間になってみたい方はいつでも門をたたいてみてください。お待ちしております。



教授や上級医の指導の下、専攻医に手術を積極的に行ってもらう、研修医や医学部学生にも実践メンバーとして参加してもらっています。

当科で取得可能な専門医と指導體制

研修施設	産婦人科専門医	周産期新生児専門医	婦人科腫瘍専門医
和歌山県立医科大学附属病院	13名	4名	4名
和歌山ろうさい病院	3名		
橋本市民病院	3名		
ひだか病院	4名		
公立那賀病院	3名		
紀南病院	4名		
新宮市立医療センター	2名		
海南医療センター	1名		

ドクターヘリに産科スタッフが搭乗し、重症妊産婦の母体搬送をおこなっています

産婦人科内の研究室では設備も充実しており、臨床研究や基礎的研究を行い、新しい診断や治療の開発を目指しています。

